

令和 7 年

# 鳥取県人口移動調査結果

【令和7年1月～令和7年12月】

令和 8 年 2 月 2 0 日公表

鳥取県総務部統計課

# 目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の人口動態	
1 概況	4
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	4
(2) 月別自然動態	5
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	5
(2) 月別県外転入・転出	6
(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別転入・転出	6
(4) ブロック別の県外転入・転出	8
(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過	8
(6) 年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出	9
II 市町村別人口動態	
1 概況	10
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	11
(2) 男女別自然動態	12
3 社会動態	
(1) 市町村别社会動態	13
(2) 県内移動	14
(3) 県外転入・転出	15
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出	16
<参考>外国人の人口動態	21
参考資料	
1 鳥取県の人口動態の推移（S30～R7）	22
2 年齢10歳階級別県外転入者数の推移（H17～R7）	23
3 年齢10歳階級別県外転出者数の推移（H17～R7）	24
4 県外転出入者数の推移（令和7年移動者総数上位6都道府県）	25

## 用語の説明

### 1 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

### 2 移動

- (1) 移動者総数……………県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数……………県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数……………県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数……………県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数……………県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数……………県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入超過数……………転入者数から転出者数を差し引いた数で、マイナスの場合は転出超過を示す。
- (8) 転出超過数……………転出者数から転入者数を差し引いた数で、マイナスの場合は転入超過を示す。

### 3 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…期首人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
  - (2) 死亡率…期首人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- ※期首人口…令和7年1月1日現在の推計人口を指す。

### 4 移動者の年齢

令和7年10月1日現在の満年齢による。

### 5 自然増減数

出生数から死亡数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

### 6 自然増減率

期首人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

### 7 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

### 8 社会増減率

期首人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

### 9 ブロック別区分

北海道…北海道

東北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

## 1 0 地区別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

## 1 1 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

## 利 用 上 の 注 意

鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。

# 調 査 結 果 の 概 要

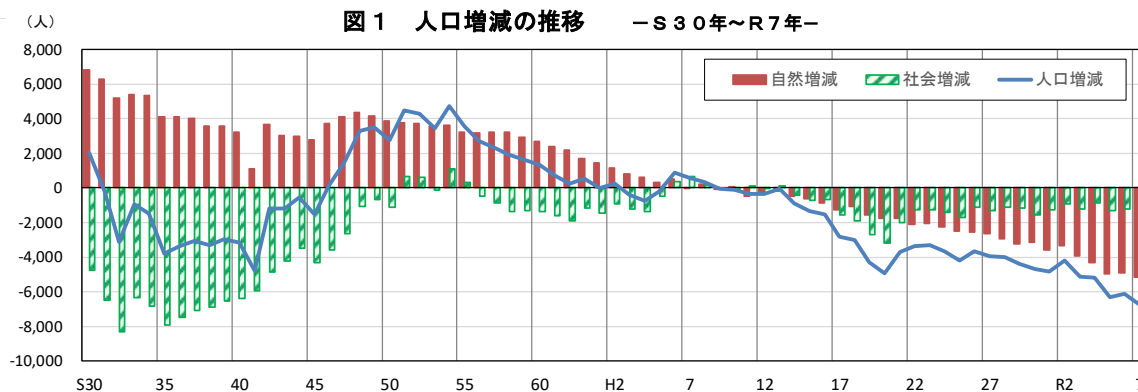
## I 鳥取県の人口動態

### 1 概況

1年間の人口動態は6,735人の減少で昭和30年以降最大の減少幅となり、前年に比べ612人の拡大

1年間の人口増減のうち、自然増減は5,146人の減少、社会増減は1,589人の減少で、合計6,735人の減少となり、人口増減の減少幅は前年に比べ612人拡大し、昭和30年以降最大となった。

(図1、統計表第1表)



### 2 自然動態

#### (1) 自然動態の推移

出生数は2,983人となり、昭和30年以降過去最少を更新

死亡数は8,129人となり、4年連続8,000人を超過

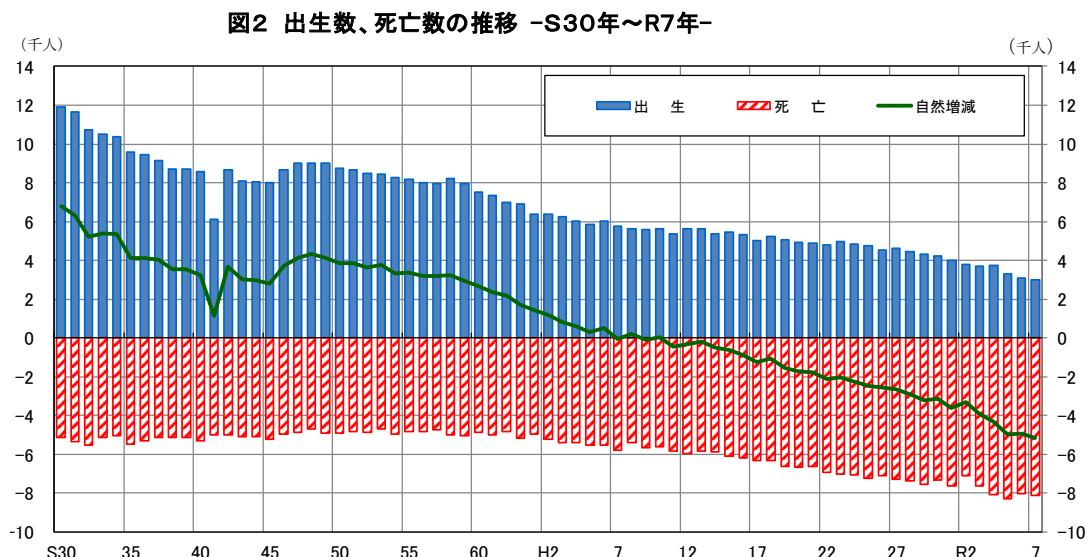
自然増減は5,146人の減少で昭和30年以降最大の減少幅となり、平成11年以降27年連続の減少

出生数は、2,983人で前年に比べ125人減少し、過去最少を更新した。昭和30年の11,901人から概ね減少傾向であり、昭和35年に1万人を割り込み9,000人台となり、昭和62年に6,000人台、平成5年に5,000人台、平成20年に4,000人台、令和2年からは3,000人台となり、令和7年では3,000人を割り込んだ。

死亡数は、8,129人で前年に比べ103人増加し、4年連続8,000人を超過した。平成2年ごろまでは5,000人前後で推移していたが、それ以降は増加傾向となり、平成15年には6,000人台、平成23年に7,000人台、令和4年からは8,000人台となっている。

自然増減は5,146人の減少となり、平成11年以降27年連続の減少となり、減少幅は前年に比べ228人拡大で、昭和30年以降最大となった。

(図2、統計表第1表)



## (2) 月別自然動態

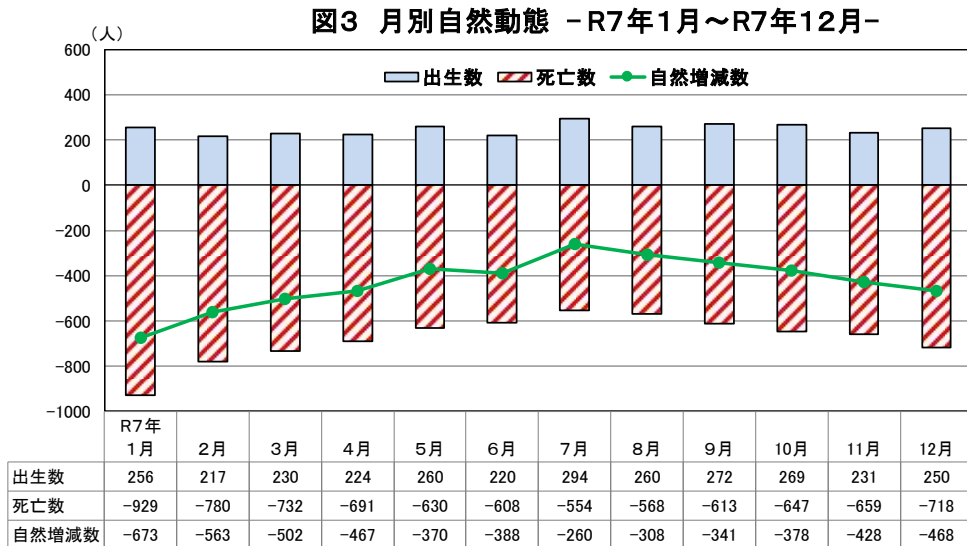
自然増減はすべての月で減少となり、減少数は1月の673人が最も多い

月別にみると、出生数は7月の294人（出生総数に占める割合9.9%）が最も多く、次いで9月の272人（同9.1%）、10月の269人（同9.0%）であった。

死亡数は1月の929人（死亡総数に占める割合11.4%）が最も多く、次いで2月の780人（同9.6%）、3月の732人（同9.0%）であった。

自然増減はすべての月で減少となり、減少数は1月の673人が最も多かった。

（図3、統計表第2表）



## 3 社会動態

### (1) 社会動態の推移

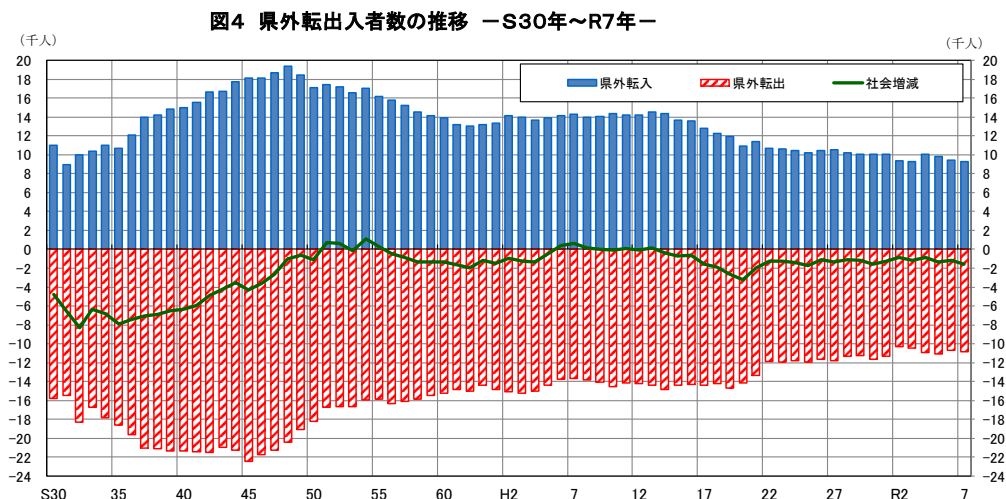
社会増減は、1, 589人減少し、平成14年以降24年連続の減少

1年間の県外転入者は9,271人、県外転出者は10,860人で社会増減は1,589人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,368人で実移動者総数は25,499人であった。

前年と比べると、県外転入者が177人減少、県外転出者が207人増加し、社会増減の減少数が384人拡大した。また、県内移動者が241人、実移動者総数が271人増加した。

社会動態の推移をみると、県外転入者は昭和48年の19,395人、県外転出者は昭和45年の22,438人をピークに転入・転出とも減少傾向となり、社会増減数は平成14年以降24年連続で減少した。

（図4、統計表第1表、統計表第4表）



## (2) 月別県外転入・転出

年間県外移動者数は、3月及び4月の2か月間で全体の39.4%を占める

月別にみると、県外転入者は3月の1,720人（県外転入者総数に占める割合18.6%）が最も多く、次いで4月の1,615人（同17.4%）、7月の765人（同8.3%）であった。

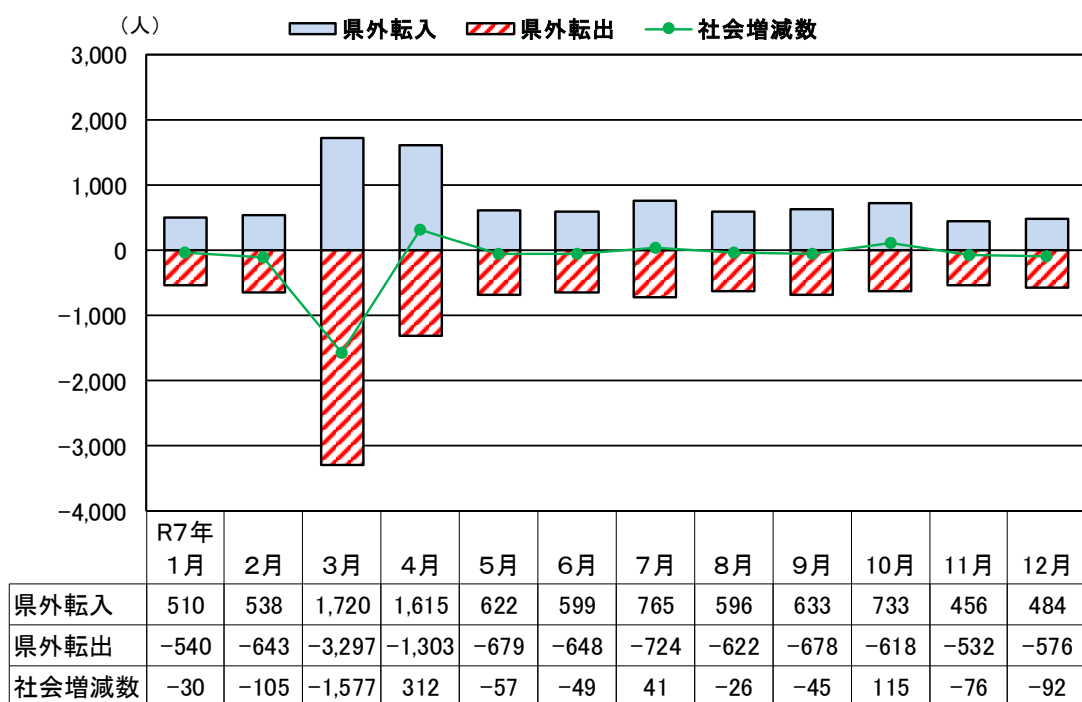
県外転出者は3月の3,297人（県外転出者総数に占める割合30.4%）が最も多く、次いで4月の1,303人（同12.0%）、7月の724人（同6.7%）であった。

県外転出入による社会増減数は、3月が最も減少(1,577人)し、4月が最も増加(312人)した。

年間県外移動者総数をみると、3月(5,017人)及び4月(2,918人)の2か月間で7,935人となり、全体(20,131人)の39.4%を占めている。

(図5、統計表第3表)

図5 月別県外転出入者数 -R7年1月～R7年12月-



## (3) 都道府県別（外国を含む）、男女別転入・転出

県外転入者数は外国の1,474人、県外転出者数は大阪府の1,373人が最も多い

都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は外国の1,474人（男性657人、女性817人）が最も多く、次いで島根県の1,156人（男性636人、女性520人）、大阪府の784人（男性408人、女性376人）であった。

県外転出者は、大阪府の1,373人（男性672人、女性701人）が最も多く、次いで島根県の1,108人（男性587人、女性521人）、東京都の1,011人（男性533人、女性478人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は外国の657人が最も多く、次いで島根県の636人、広島県の430人であり、県外転出者は、大阪府の672人が最も多く、次いで島根県の587人、東京都の533人であった。

女性の県外転入者は外国の817人が最も多く、次いで島根県の520人、大阪府の376人であり、県外転出者は、大阪府の701人が最も多く、次いで外国の529人、島根県の521人であった。

(図6-1、図6-2、図6-3、統計表第9表)



図6-1 従前の住所地及び転出地の転入・転出者数上位15都道府県(総数)

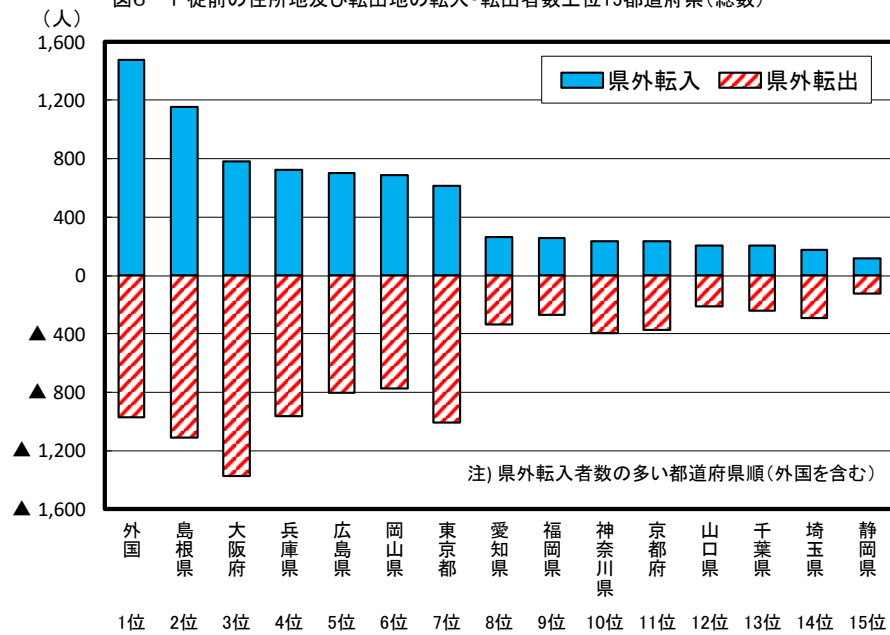


図6-2 従前の住所地及び転出地の転入・転出者数上位15都道府県(男)

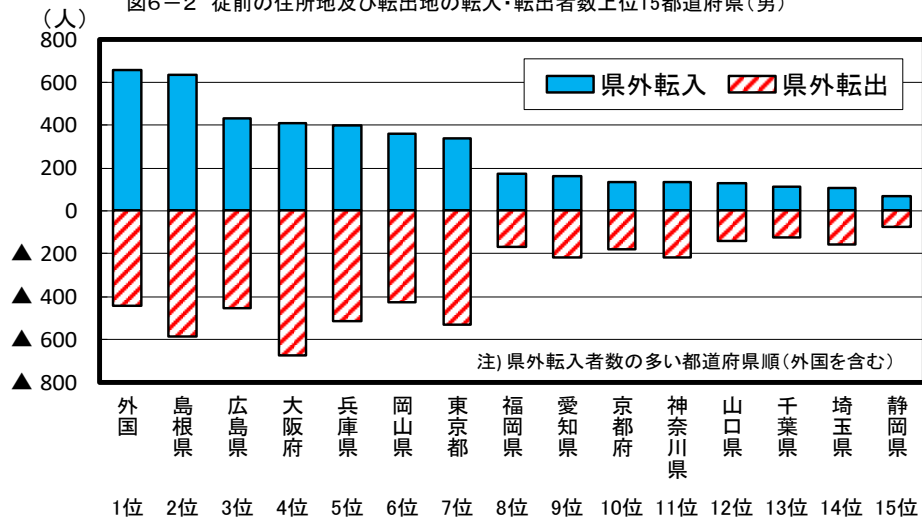
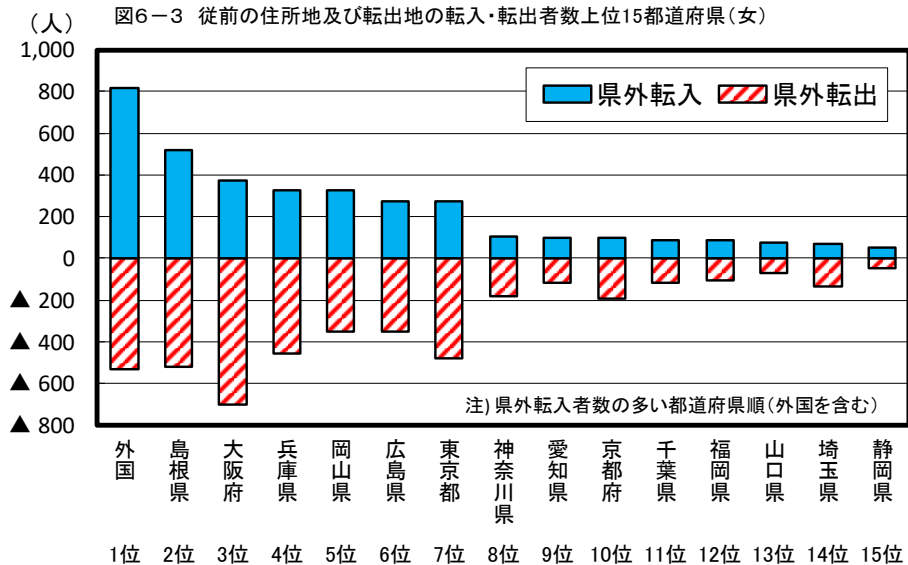


図6-3 従前の住所地及び転出地の転入・転出者数上位15都道府県(女)



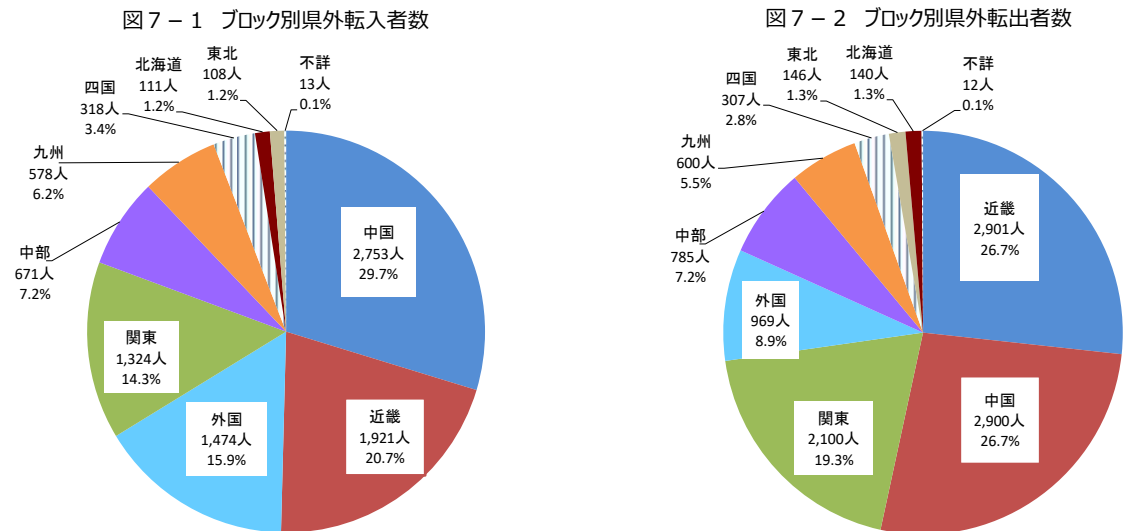
#### (4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入は中国ブロックが最多。県外転出については近畿ブロックが最多。

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの2,753人（男性1,554人、女性1,199人）が最も多く、次いで近畿ブロックの1,921人（男性1,039人、女性882人）、外国の1,474人（男性657人、女性817人）であった。

県外転出者は近畿ブロックの2,901人（男性1,453人、女性1,448人）が最も多く、次いで中国ブロックの2,900人（男性1,608人、女性1,292人）、関東ブロックの2,100人（男性1,124人、女性976人）であった。

（図7-1、図7-2、統計表第5表、統計表第9表）



#### (5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過

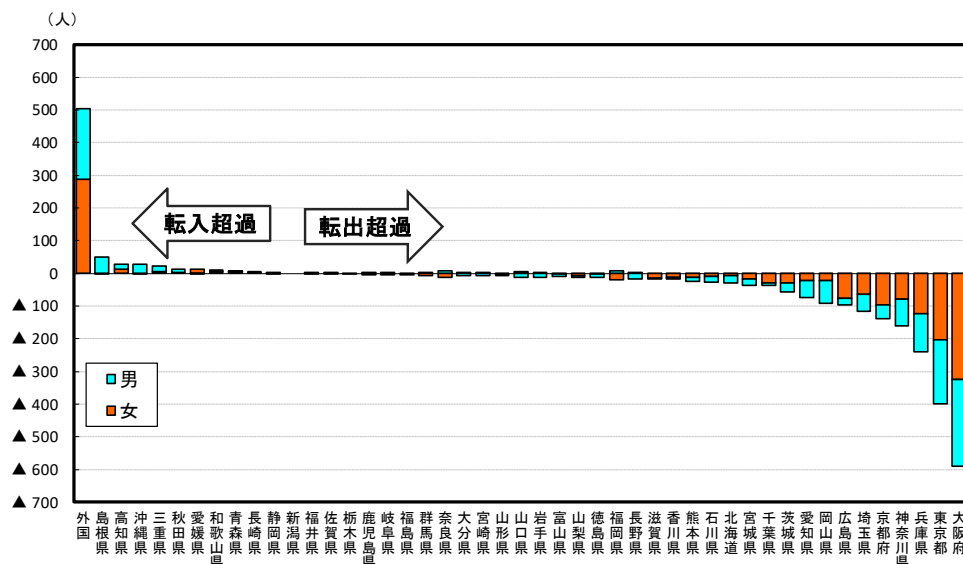
転入超過数は外国の505人、転出超過数は大阪府の589人が最も多い

転入超過数は、外国の505人（男性217人、女性288人）が最も多く、次いで島根県の48人（男性49人、女性-1人）、高知県の28人（男性14人、女性14人）であった。

転出超過数は、大阪府の589人（男性264人、女性325人）が最も多く、次いで東京都の399人（男性195人、女性204人）、兵庫県の241人（男性117人、女性124人）であった。

（図8、統計表第5表、統計表第9表）

図8 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数（男女別）



(6) 年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出

転出超過数は、20～24歳の929人が最も多い

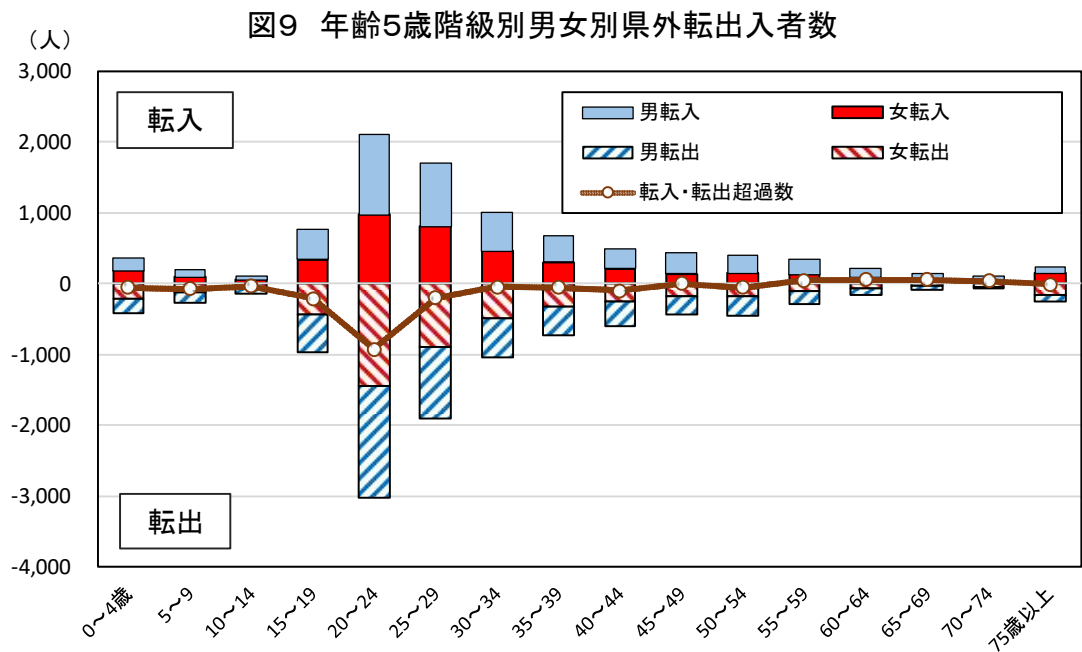
年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,131人：男性の県外転入者総数に占める割合が22.2%、女性969人：女性の県外転入者総数に占める割合が23.2%）、次いで男女とも25～29歳（男性890人：同17.5%、女性805人：同19.3%）であった。

県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,588人：男性の県外転出者総数に占める割合が27.2%、女性1,441人：女性の県外転出者総数に占める割合が28.7%）、次いで男女とも25～29歳（男性1,001人：同17.1%、女性895人：同17.8%）であった。

転出超過数は、20～24歳の929人（男性457人、女性472人）が最も多い。

年間県外移動者総数をみると、20～34歳で10,766人となり、全体（20,131人）の53.5%を占めている。

（図9、統計表第4表、統計表第10表）



## Ⅱ 市町村別人口動態

### 1 概況

人口増減は、すべての市町村で減少

1年間の市町村別の人口増減をみると、すべての市町村で減少し、そのうち最も減少したのは鳥取市の2,160人（自然減少1,393人、社会減少767人）、次いで米子市の947人（自然減少987人、社会増加40人）であった。

また、増減率を見ると、すべての市町村で減少し、そのうち最も減少したのは若桜町の37.01%、次いで日南町の36.90%、三朝町の34.33%であった。

（表1、統計表第6表、統計表第7表）

表1 市町村別人口増減

（単位：人、‰）

市町村	自然増減			社会増減			人口増減数	人口増減率
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数		
県計	2,983	8,129	-5,146	14,639	16,228	-1,589	-6,735	-12.71
鳥取市	1,057	2,450	-1,393	4,139	4,906	-767	-2,160	-11.88
米子市	966	1,953	-987	4,711	4,671	40	-947	-6.58
倉吉市	207	712	-505	1,241	1,414	-173	-678	-15.48
境港市	167	554	-387	1,224	1,230	-6	-393	-12.47
岩美町	45	170	-125	234	331	-97	-222	-21.67
若桜町	6	73	-67	49	73	-24	-91	-37.01
智頭町	11	139	-128	140	206	-66	-194	-33.58
八頭町	51	303	-252	327	380	-53	-305	-20.81
三朝町	13	125	-112	112	188	-76	-188	-34.33
湯梨浜町	115	253	-138	486	477	9	-129	-8.31
琴浦町	56	291	-235	399	531	-132	-367	-24.34
北栄町	87	229	-142	311	351	-40	-182	-13.41
日吉津村	31	40	-9	143	162	-19	-28	-7.85
大山町	60	310	-250	369	421	-52	-302	-21.27
南部町	46	155	-109	221	330	-109	-218	-22.22
伯耆町	45	158	-113	333	283	50	-63	-6.27
日南町	8	109	-101	75	109	-34	-135	-36.90
日野町	7	54	-47	71	108	-37	-84	-33.02
江府町	5	51	-46	54	57	-3	-49	-20.72

## 2 自然動態

### (1) 市町村別自然動態

自然増減は、すべての市町村で減少

自然増減を市町村別にみると、すべての市町村で減少した。

最も減少したのは鳥取市の1,393人（出生数1,057人、死亡数2,450人）、次いで米子市の987人（出生数966人、死亡数1,953人）であった。

また、自然増減率（対1,000人比）を見ると、すべての市町村で減少し、そのうち最も減少したのは日南町の27.60%、次いで若桜町の27.25%、智頭町の22.15%であった。

（表1、図10-1、図10-2、統計表第6表）

図10-1 市町村別自然増減数

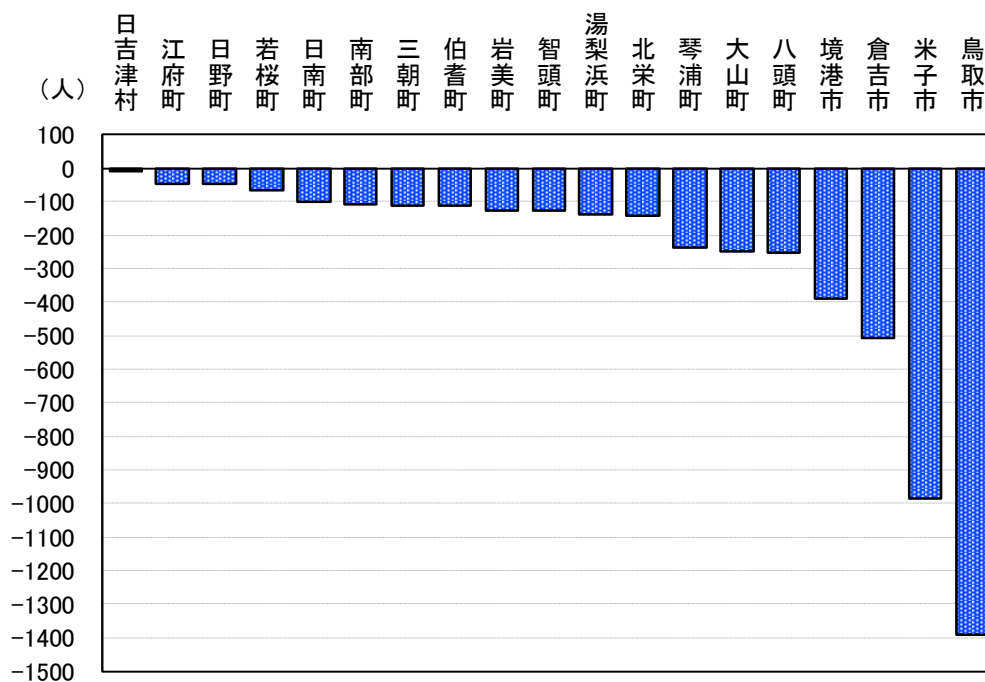
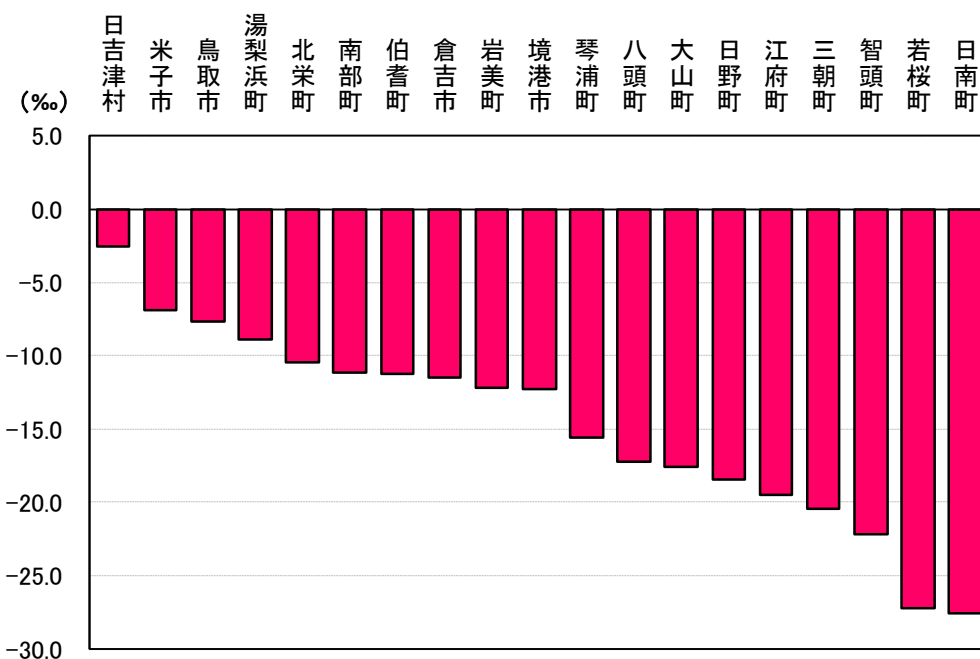


図10-2 市町村別自然増減率



## (2) 男女別自然動態

### 男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最多

出生数・死亡数を市町村別の男女別にみると、男性の出生数は鳥取市の 584 人が最も多く、次いで米子市の 513 人、倉吉市の 118 人、境港市の 90 人であった。死亡数は鳥取市の 1,145 人が最も多く、次いで米子市の 980 人、倉吉市の 343 人、境港市の 271 人であった。

女性の出生数は鳥取市の 473 人が最も多く、次いで米子市の 453 人、倉吉市の 89 人、境港市の 77 人であった。死亡数は鳥取市の 1,305 人が最も多く、次いで米子市の 973 人、倉吉市の 369 人、境港市の 283 人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では若桜町、日南町、日野町及び江府町の 3 人、女性では江府町の 2 人、最も少なかった死亡数は、男性、女性ともに日吉津村で各 20 人であった。

(表2、統計表第6表)

表2 市町村別男女別自然動態

(単位:人、‰)

市町村	出 生			死 亡			自 然 増 減			自然増減率
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	
県 計	2,983	1,606	1,377	8,129	3,942	4,187	-5,146	-2,336	-2,810	-9.71
市 計	2,397	1,305	1,092	5,669	2,739	2,930	-3,272	-1,434	-1,838	-8.16
郡 計	586	301	285	2,460	1,203	1,257	-1,874	-902	-972	-14.53
東部地区	1,170	643	527	3,135	1,464	1,671	-1,965	-821	-1,144	-9.14
中部地区	478	262	216	1,610	772	838	-1,132	-510	-622	-12.11
西部地区	1,335	701	634	3,384	1,706	1,678	-2,049	-1,005	-1,044	-9.25
鳥 取 市	1,057	584	473	2,450	1,145	1,305	-1,393	-561	-832	-7.66
米 子 市	966	513	453	1,953	980	973	-987	-467	-520	-6.86
倉 吉 市	207	118	89	712	343	369	-505	-225	-280	-11.53
境 港 市	167	90	77	554	271	283	-387	-181	-206	-12.27
岩 美 郡	45	24	21	170	73	97	-125	-49	-76	-12.20
岩 美 町	45	24	21	170	73	97	-125	-49	-76	-12.20
八 頭 郡	68	35	33	515	246	269	-447	-211	-236	-19.53
若 桜 町	6	3	3	73	38	35	-67	-35	-32	-27.25
智 頭 町	11	8	3	139	68	71	-128	-60	-68	-22.15
八 頭 町	51	24	27	303	140	163	-252	-116	-136	-17.20
東 伯 郡	271	144	127	898	429	469	-627	-285	-342	-12.63
三 朝 町	13	7	6	125	57	68	-112	-50	-62	-20.45
湯梨浜町	115	58	57	253	120	133	-138	-62	-76	-8.89
琴 浦 町	56	28	28	291	135	156	-235	-107	-128	-15.59
北 栄 町	87	51	36	229	117	112	-142	-66	-76	-10.46
西 伯 郡	182	89	93	663	355	308	-481	-266	-215	-12.78
日吉津村	31	16	15	40	20	20	-9	-4	-5	-2.52
大 山 町	60	29	31	310	165	145	-250	-136	-114	-17.61
南 部 町	46	21	25	155	82	73	-109	-61	-48	-11.11
伯 耆 町	45	23	22	158	88	70	-113	-65	-48	-11.24
日 野 郡	20	9	11	214	100	114	-194	-91	-103	-22.64
日 南 町	8	3	5	109	52	57	-101	-49	-52	-27.60
日 野 町	7	3	4	54	23	31	-47	-20	-27	-18.47
江 府 町	5	3	2	51	25	26	-46	-22	-24	-19.45

### 3 社会動態

#### (1) 市町村別社会動態

社会増減は3市町で増加し、16市町村で減少

社会増減を市町村別にみると、米子市、湯梨浜町及び伯耆町の3市町で増加し、その他の16市町村で減少した。

最も増加したのは伯耆町の50人（男性47人、女性3人）、次いで米子市の40人（男性14人、女性26人）であった。最も減少したのは鳥取市の767人（男性315人、女性452人）、次いで倉吉市の173人（男性97人、女性76人）であった。

社会増減率（対1,000人比）をみると、最も増加したのは伯耆町の4.97%、次いで湯梨浜町の0.58%で、最も減少したのは日野町の14.54%、次いで三朝町の13.88%であった。

（表1、表3、図11-1、図11-2、統計表第7表、統計表第10表）

表3 市町村別社会動態

（単位：人、‰）

市町村	県外			県内			社会増減数	社会増減率
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数		
県計	9,271	10,860	-1,589	5,368	5,368	0	-1,589	-2.99
市計	7,742	8,902	-1,160	3,573	3,319	254	-906	-2.26
郡計	1,529	1,958	-429	1,795	2,049	-254	-683	-5.30
東部地区	3,392	4,312	-920	1,497	1,584	-87	-1,007	-4.69
中部地区	1,177	1,489	-312	1,372	1,472	-100	-412	-4.41
西部地区	4,702	5,059	-357	2,499	2,312	187	-170	-0.77
鳥取市	3,014	3,803	-789	1,125	1,103	22	-767	-4.22
米子市	3,211	3,486	-275	1,500	1,185	315	40	0.28
倉吉市	617	740	-123	624	674	-50	-173	-3.95
境港市	900	873	27	324	357	-33	-6	-0.19
岩美町	148	203	-55	86	128	-42	-97	-9.47
若桜町	32	24	8	17	49	-32	-24	-9.76
智頭町	77	121	-44	63	85	-22	-66	-11.42
八頭町	121	161	-40	206	219	-13	-53	-3.62
三朝町	60	82	-22	52	106	-54	-76	-13.88
湯梨浜町	149	219	-70	337	258	79	9	0.58
琴浦町	242	273	-31	157	258	-101	-132	-8.76
北栄町	109	175	-66	202	176	26	-40	-2.95
日吉津村	46	67	-21	97	95	2	-19	-5.33
大山町	186	226	-40	183	195	-12	-52	-3.66
南部町	116	152	-36	105	178	-73	-109	-11.11
伯耆町	154	125	29	179	158	21	50	4.97
日南町	36	51	-15	39	58	-19	-34	-9.29
日野町	30	52	-22	41	56	-15	-37	-14.54
江府町	23	27	-4	31	30	1	-3	-1.27

注1）転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。

転入超過数がマイナス（-）の場合は 転出超過を示す。

注2）地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。

図11-1 市町村別社会増減数

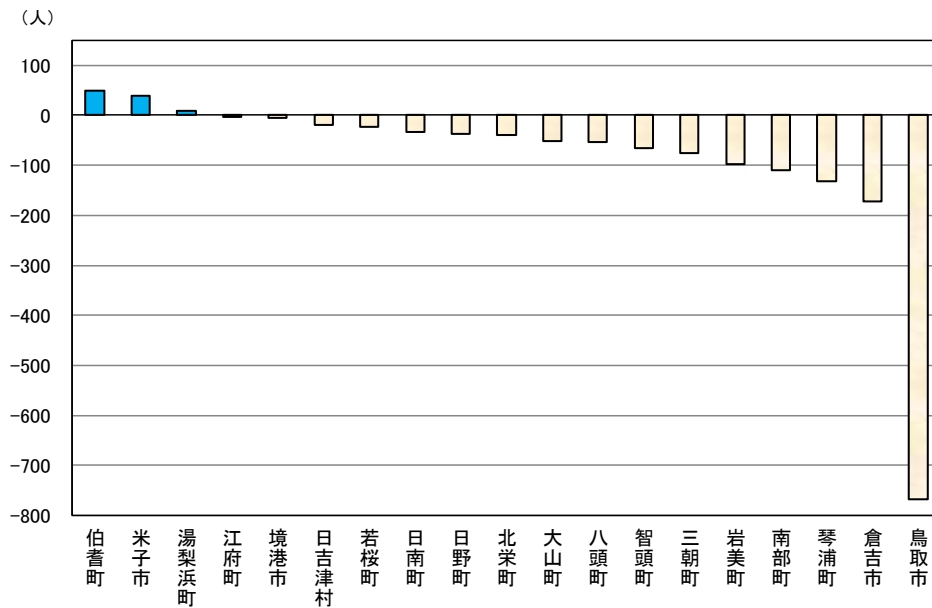
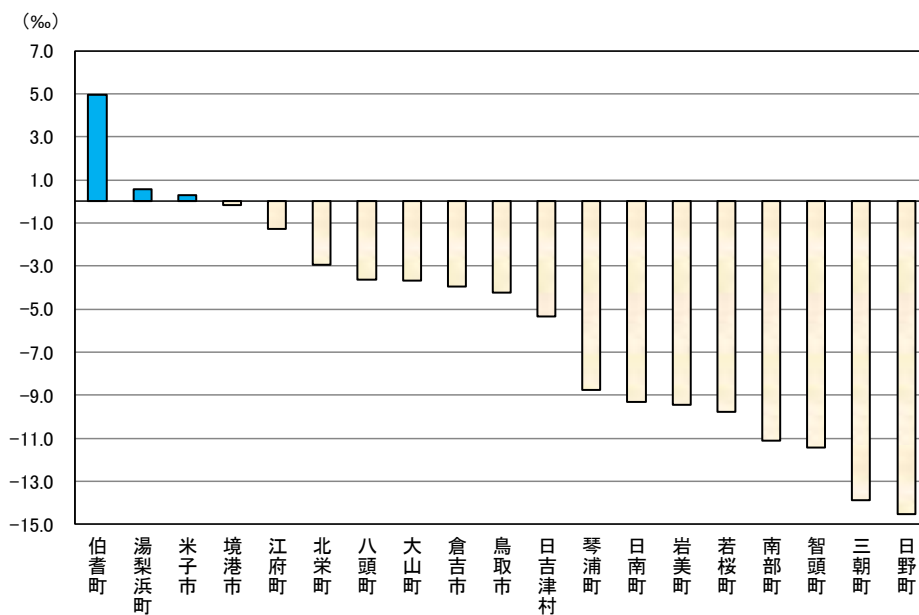


図11-2 市町村別社会増減率



## (2) 県内移動

県内移動で最も多いのは、鳥取市から米子市への406人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への406人（男性221人、女性185人）が最も多く、次いで米子市から鳥取市への325人（男性186人、女性139人）であった。

県内移動での転入超過は、米子市の315人（男性128人、女性187人）が最も多く、次いで湯梨浜町の79人（男性32人、女性47人）であった。

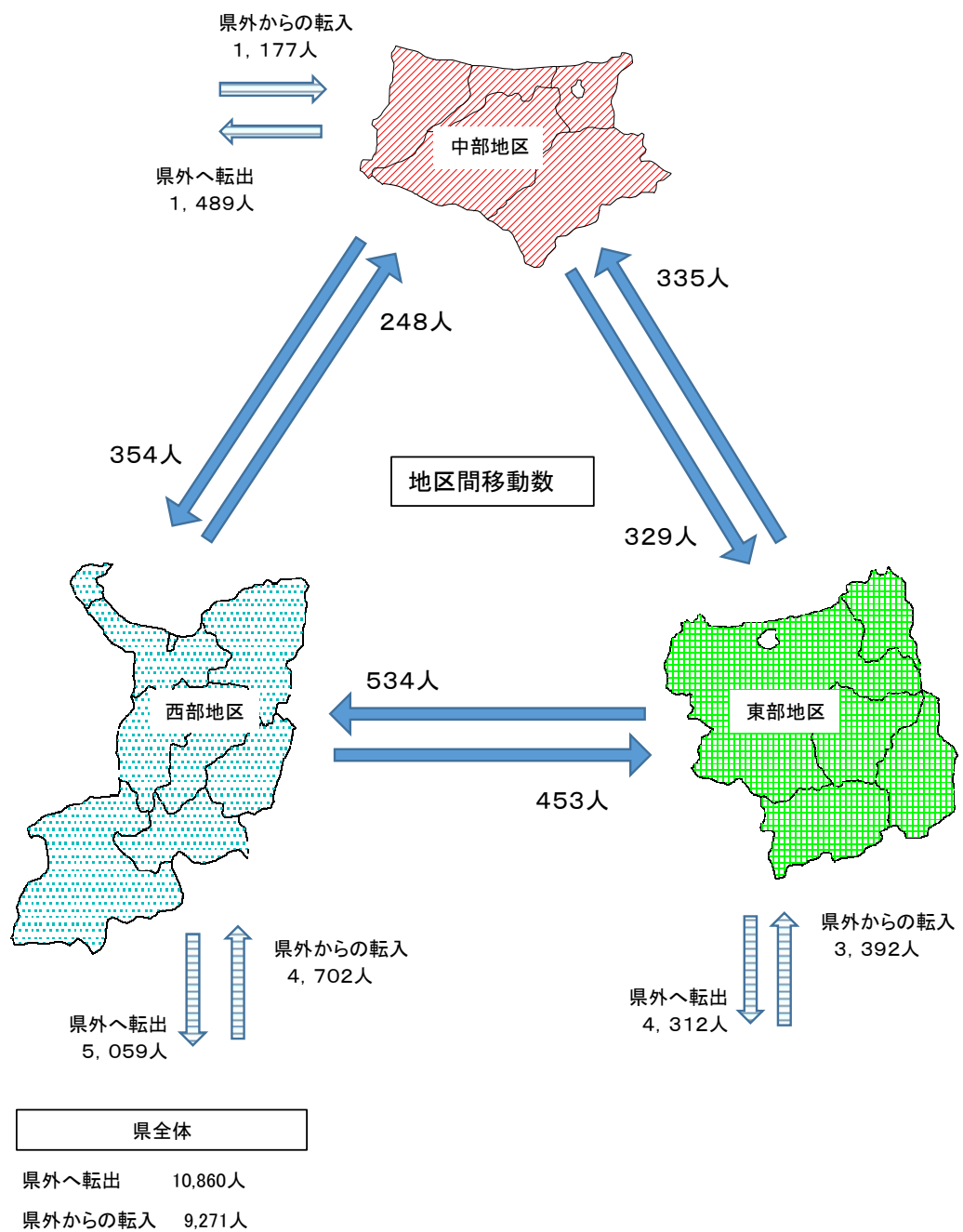
転出超過は、琴浦町の101人（男性51人、女性50人）が最も多く、次いで南部町の73人（男性46人、女性27人）であった。

また、県内移動を地区別にみると、東部から西部への534人（男性289人、女性245人）が最も多く、次いで西部から東部への453人（男性270人、女性183人）、中部から西部への354人（男性180人、女性174人）であった。

（図12、統計表第8表）



図12 地区別社会動態(R7年1月～R7年12月)



注) 地区間移動数は、地区内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への649人

県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への544人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への649人（男性350人、女性299人）、次いで外国から鳥取市への516人（男性255人、女性261人）であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への544人（男性287人、女性257人）、次いで鳥取市から大阪府への526人（男性265人、女性261人）であった。

転入・転出超過数をみると、転入超過は、伯耆町の29人（男性27人、女性2人）が最も多く、次いで境港市27人（男性19人、女性46人）であった。

転出超過は、鳥取市の789人（男性350人、女性439人）が最も多く、次いで米子市の275人（男性114人、女性161人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では外国からの616人（男性301人、女性315人）が最も多く、次いで兵庫県からの417人（男性226人、女性191人）、中部では外国からの245人（男性98人、女性147人）が最も多く、次いで大阪府からの145人（男性68人、女性77人）、西部では島根県からの896人（男性478人、女性419人）が最も多く、次いで外国からの613人（男性259人、女性355人）であった。

県外転出者については東部では大阪府への614人（男性309人、女性305人）が最も多く、次いで兵庫県への501人（男性271人、女性230人）、中部では大阪府への237人（男性111人、女性126人）が最も多く、次いで外国への149人（男性59人、女性90人）、西部では島根県への784人（男性405人、女性379人）が最も多く、次いで大阪府への522人（男性252人、女性270人）であった。

（表4、統計表第9表）

表4 都道府県別(外国を含む)県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他
外国	1,474	516	339	108	511	969	370	185	94	320
島根県	総数	米子市	境港市	鳥取市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
	1,156	649	176	172	159	1,108	544	216	138	210
大阪府	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	784	259	217	79	229	1,373	526	344	117	386
兵庫県	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	726	369	162	48	147	967	443	261	70	193
広島県	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
	706	323	213	52	118	803	320	272	59	152
岡山県	総数	米子市	鳥取市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	686	261	241	80	104	776	287	267	77	145
東京都	総数	米子市	鳥取市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	612	224	214	43	131	1,011	377	335	69	230

(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入・転出

県外転入者、県外転出者とも20～24歳が最も多い。

【鳥取市】

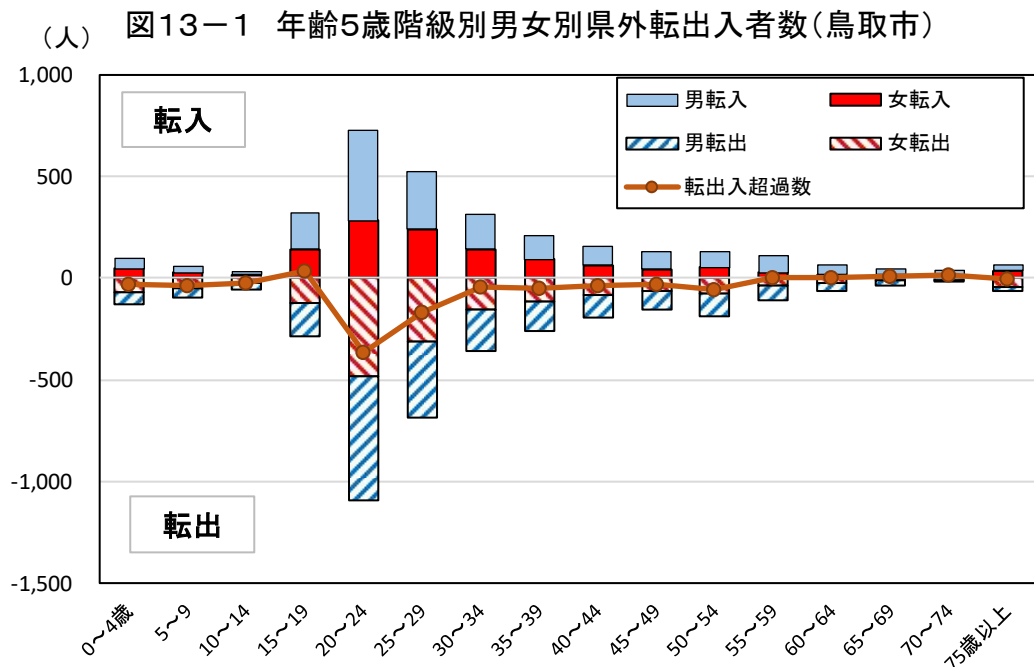
県外転入者は、20～24歳の727人（男性446人、女性281人：県全体の県外転入者総数に占める割合7.8%）が最も多く、次いで25～29歳の521人（男性281人、女性240人：同5.6%）であった。

県外転出者は、20～24歳の1,094人（男性610人、女性484人：県全体の県外転出者総数に占める割合10.1%）が最も多く、次いで25～29歳の686人（男性373人、女性313人：同6.3%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、15～19歳の33人（男性15人、女性18人）が最も多く、次いで70～74歳の16人（男性15人、女性1人）であった。

転出超過数は、20～24歳の367人（男性164人、女性203人）が最も多く、次いで25～29歳の165人（男性92人、女性73人）であった。

（図13-1、統計表第10表）



## 【米子市】

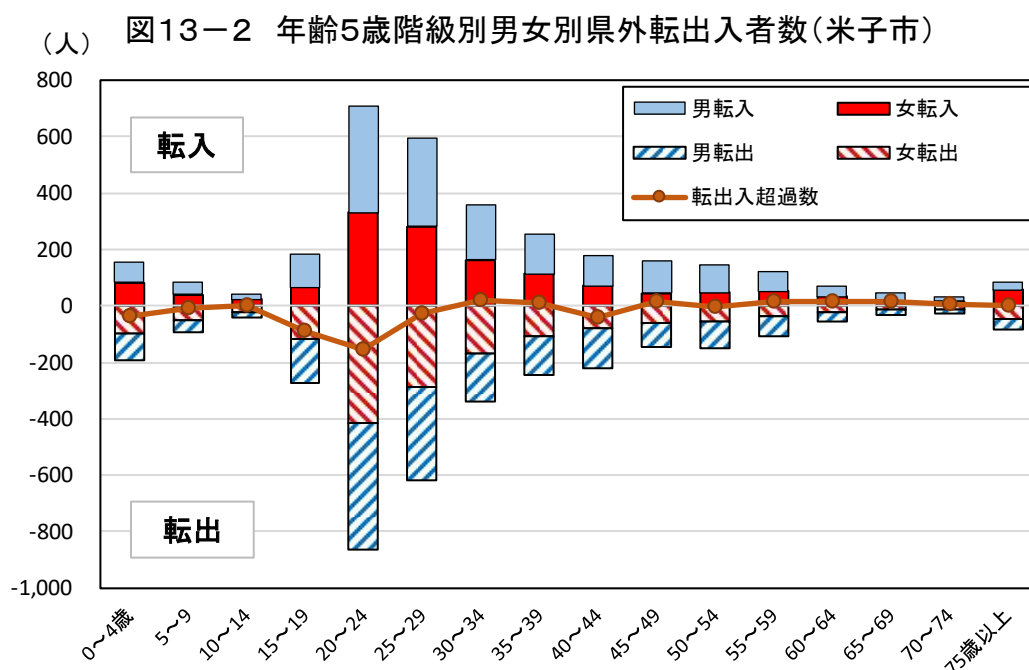
県外転入者は、20～24歳の707人（男性376人、女性331人：同7.6%）が最も多く、次いで25～29歳の592人（男性312人、女性280人：同6.4%）であった。

県外転出者は、20～24歳の864人（男性450人、女性414人：同8.0%）が最も多く、次いで25～29歳の618人（男性329人、女性289人：同5.7%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、30～34歳の19人（男26人、女性7人）が最も多く、次いで60～64歳の15人（男性4人、女性11人）及び65～69歳の15人（男11人、女4人）であった。

転出超過数は、20～24歳の157人（男性74人、女性83人）が最も多く、次いで15～19歳の89人（男性36人、女性53人）であった。

（図13－2、統計表第10表）



## 【倉吉市】

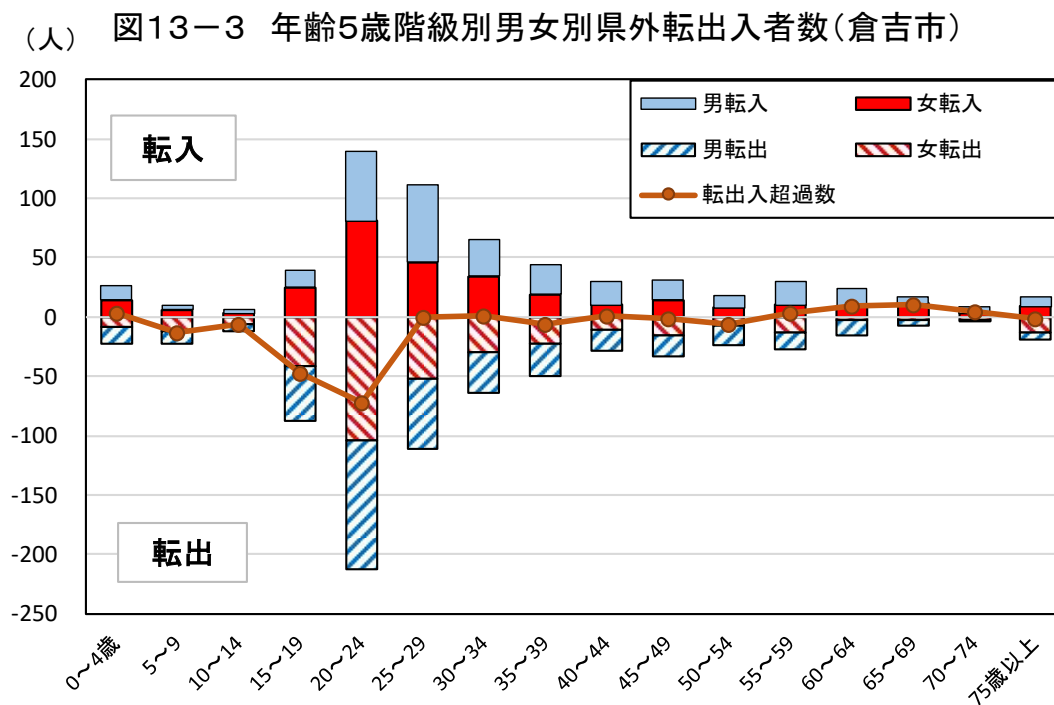
県外転入者は、20～24歳の140人（男性59人、女性81人：同1.5%）が最も多く、次いで25～29歳の111人（男65人、女性46人：同1.2%）であった。

県外転出者は、20～24歳の212人（男性108人、女性104人：同2.0%）が最も多く、次いで25～29歳の111人（男性59人、女性52人：同1.0%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、65～69歳の10人（男性2人、女性8人）が最も多く、次いで60～64歳の9人（男性3人、女性6人）であった。

転出超過数は、20～24歳の72人（男性49人、女性23人）が最も多く、次いで15～19歳の48人（男性32人、女性16人）であった。

（図13－3、統計表第10表）



## 【境港市】

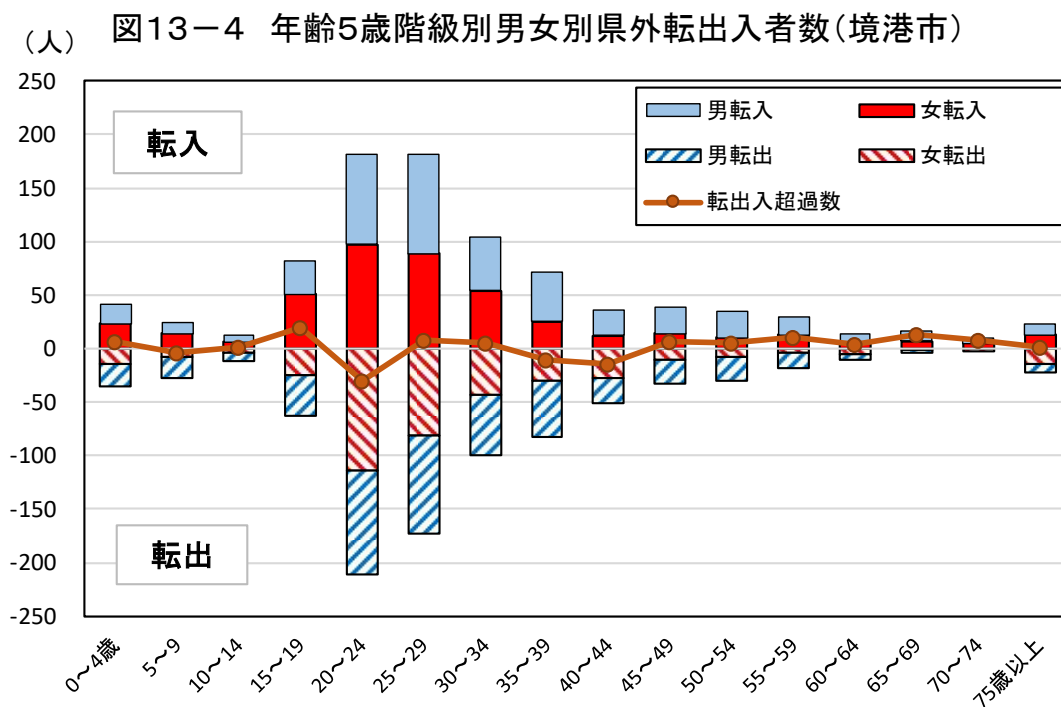
県外転入者は、20～24 歳及び 25～29 歳の 181 人（20～24 歳：男性 84 人、女 97 人：同 2.0%、25～29 歳：男性 92 人、女 89 人：同 2.0%）であった。

県外転出者は、20～24 歳の 211 人（男性 97 人、女性 114 人：同 1.9%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 173 人（男性 92 人、女性 81 人：同 1.6%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数では、15～19 歳の 19 人（男性 7 人、女性 26 人）が最も多く、次いで 65～69 歳の 13 人（男性 7 人、女性 6 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳の 30 人（男性 13 人、女性 17 人）が最も多く、次いで 40～44 歳の 15 人（男性 0 人、女性 15 人）であった。

（図 13-4、統計表第 10 表）



## <参考> 外国人の人口動態

### 1 自然動態

- ・出生数は17人（男性6人、女性11人）
- ・死亡数は28人（男性13人、女性15人）

（表5）

表5 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	17	6	11	28	13	15
1月	2	1	1	2	1	1
2月	2	1	1	3	2	1
3月	0	0	0	5	3	2
4月	2	1	1	3	1	2
5月	3	0	3	3	1	2
6月	0	0	0	2	0	2
7月	0	0	0	0	0	0
8月	2	1	1	2	1	1
9月	1	0	1	0	0	0
10月	2	1	1	3	2	1
11月	0	0	0	0	0	0
12月	3	1	2	5	2	3

### 2 社会動態

#### (1) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,968人（男性919人、女性1,049人）で、県外転出者数は1,470人（男性675人、女性795人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の645人（男性354人、女性291人）で、次いで米子市の480人（男性202人、女性278人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の523人（男性262人、女性261人）で、次いで米子市の334人（男性140人、女性194人）
- ・転入超過数は、米子市の146人（男性62人、女性84人）が最も多く、転出超過数は、智頭町の13人（女性13人）が最も多い。

#### (2) 県内移動

- ・県内移動者数は118人（男性43人、女性75人）
- ・転入が最も多いのは倉吉市の24人（男性8人、女性16人）
- ・転入超過数は、湯梨浜町の12人（男性8人、女性4人）が最も多く、転出超過数は、琴浦町の15人（男性6人、女性9人）が最も多い。

（表6）

表6 市町村別社会動態(外国人)

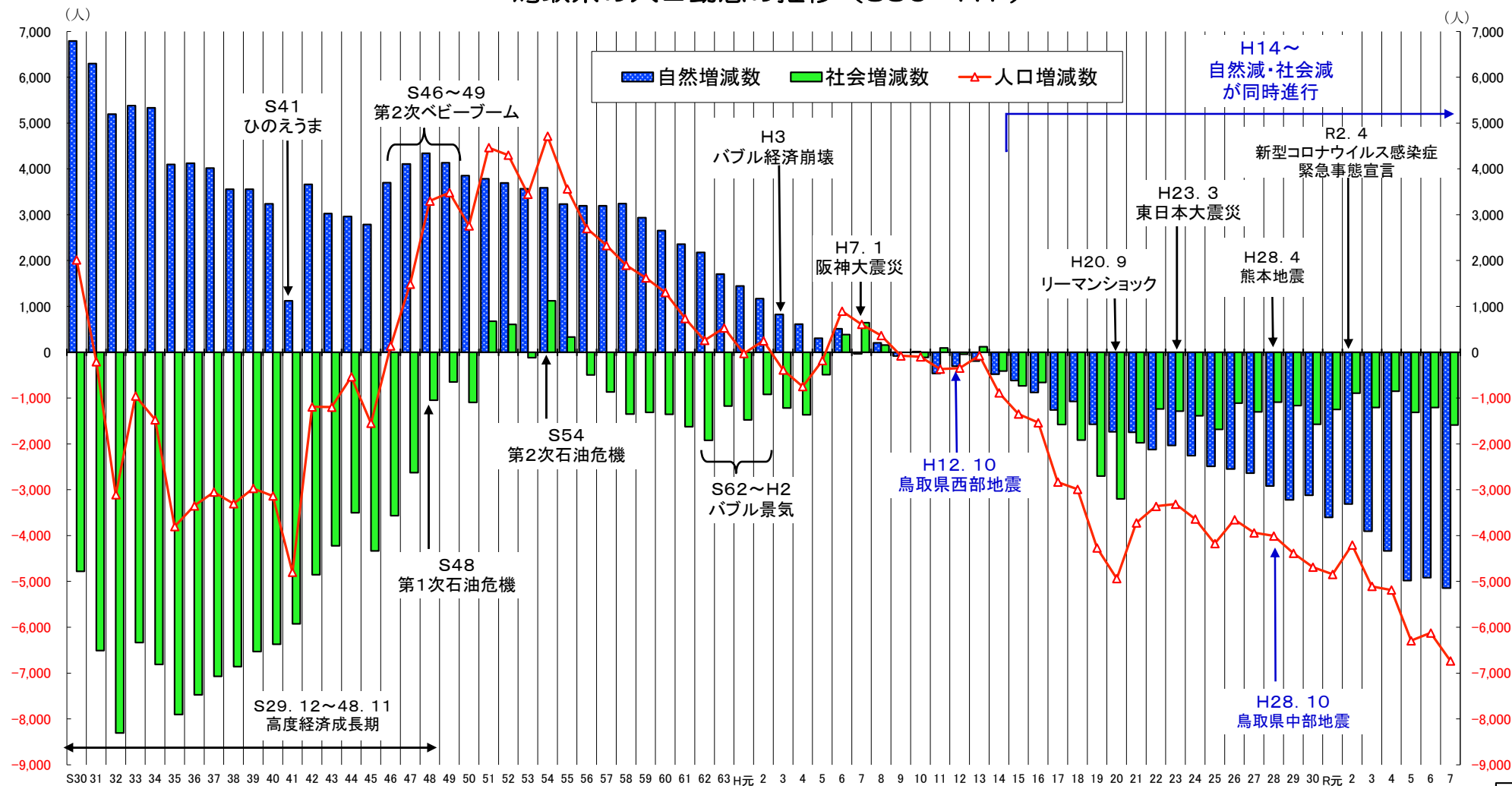
(単位:人)

	県外														県内														(単位：人)
市町村	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	社会増減数														
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女																
県計	1,968	919	1,049	1,470	675	795	498	118	43	75	118	43	75	0	498														
東部地区	748	397	351	624	296	328	124	29	9	20	25	8	17	4	128														
中部地区	330	145	185	228	104	124	102	54	20	34	52	18	34	2	104														
西部地区	890	377	513	618	275	343	272	35	14	21	41	17	24	-6	266														
鳥取市	645	354	291	523	262	261	122	20	6	14	18	5	13	2	124														
米子市	480	202	278	334	140	194	146	10	5	5	20	9	11	-10	136														
倉吉市	116	46	70	67	33	34	49	24	8	16	23	7	16	1	50														
境港市	217	79	138	139	53	86	78	10	3	7	5	3	2	5	83														
岩美町	66	29	37	53	20	33	13	2	2	0	3	0	3	-1	12														
若桜町	8	0	8	6	0	6	2	2	0	2	2	2	0	0	2														
智頭町	17	10	7	30	10	20	-13	3	0	3	0	0	0	3	-10														
八頭町	12	4	8	12	4	8	0	2	1	1	2	1	1	0	0														
三朝町	28	17	11	25	18	7	3	0	0	0	1	1	0	-1	2														
湯梨浜町	23	7	16	22	9	13	1	16	8	8	4	0	4	12	13														
琴浦町	129	62	67	98	38	60	31	5	3	2	20	9	11	-15	16														
北栄町	34	13	21	16	6	10	18	9	1	8	4	1	3	5	23														
日吉津村	11	6	5	6	4	2	5	0	0	0	0	0	0	0	5														
大山町	84	34	50	79	37	42	5	5	5	0	4	2	2	1	6														
南部町	39	23	16	30	23	7	9	0	0	0	2	2	0	-2	7														
伯耆町	39	20	19	15	7	8	24	9	1	8	2	1	1	7	31														
日南町	11	9	2	6	6	0	5	1	0	1	0	0	0	1	6														
日野町	6	4	2	7	5	2	-1	0	0	0	8	0	8	-8	-9														
江府町	3	0	3	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1														

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（-）の場合は、転出超過を示す。

注2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。

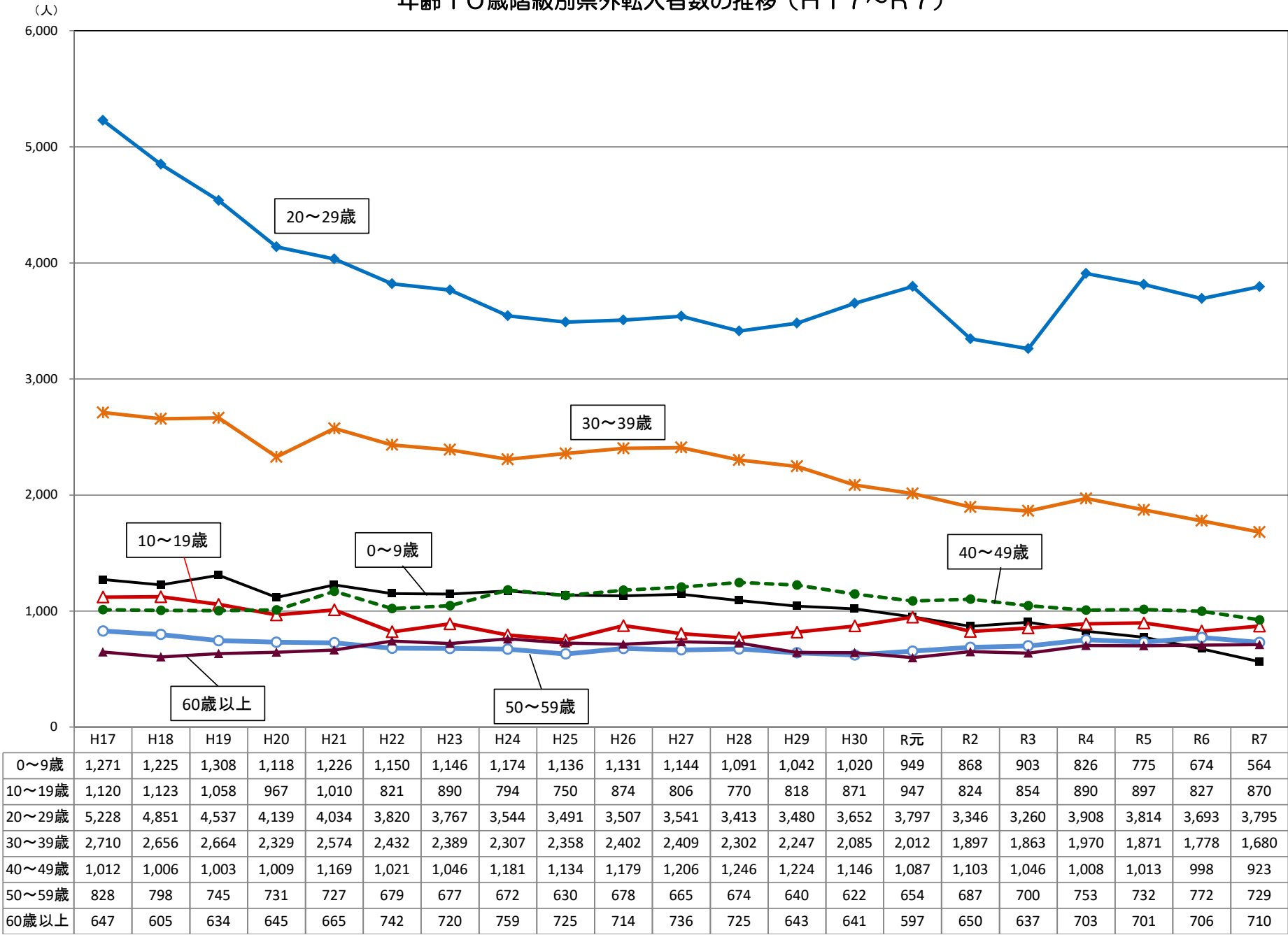
## 鳥取県の人口動態の推移 (S30~R7)



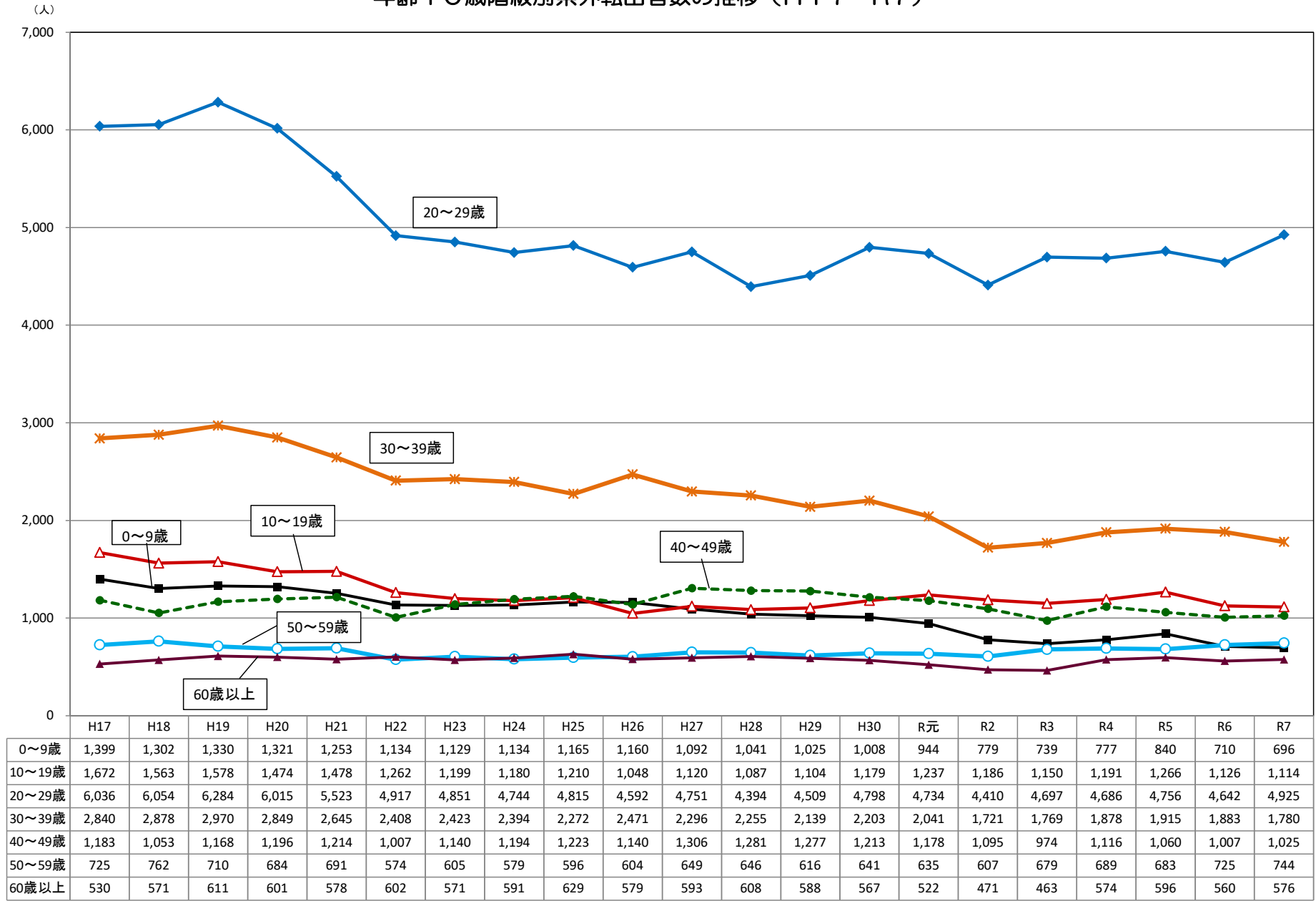
注) グラフは、暦年 (1月~12月) の値



年齢10歳階級別県外転入者数の推移（H17～R7）

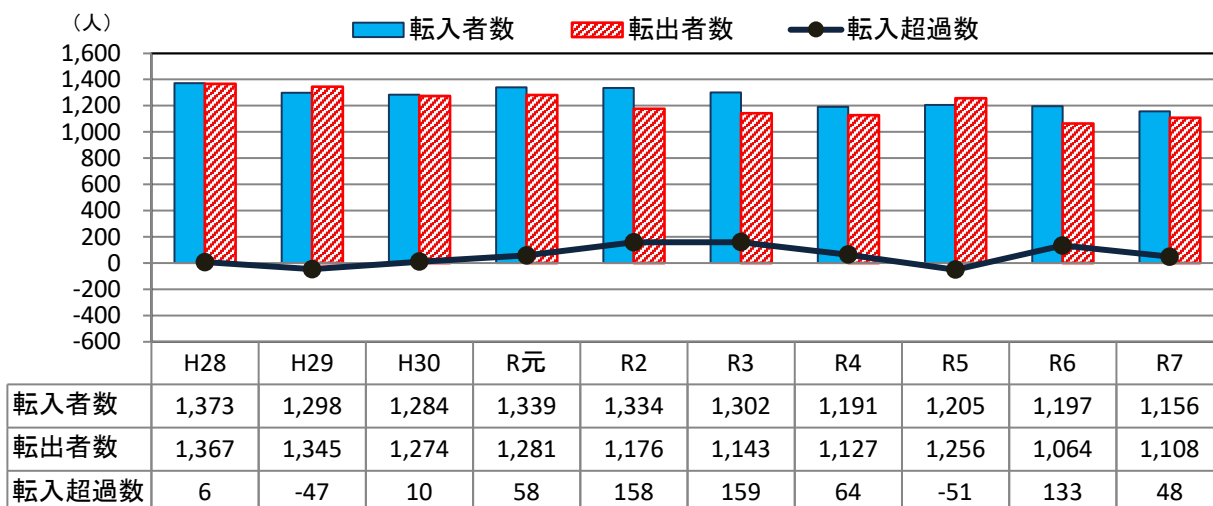


年齢10歳階級別県外転出者数の推移（H17～R7）

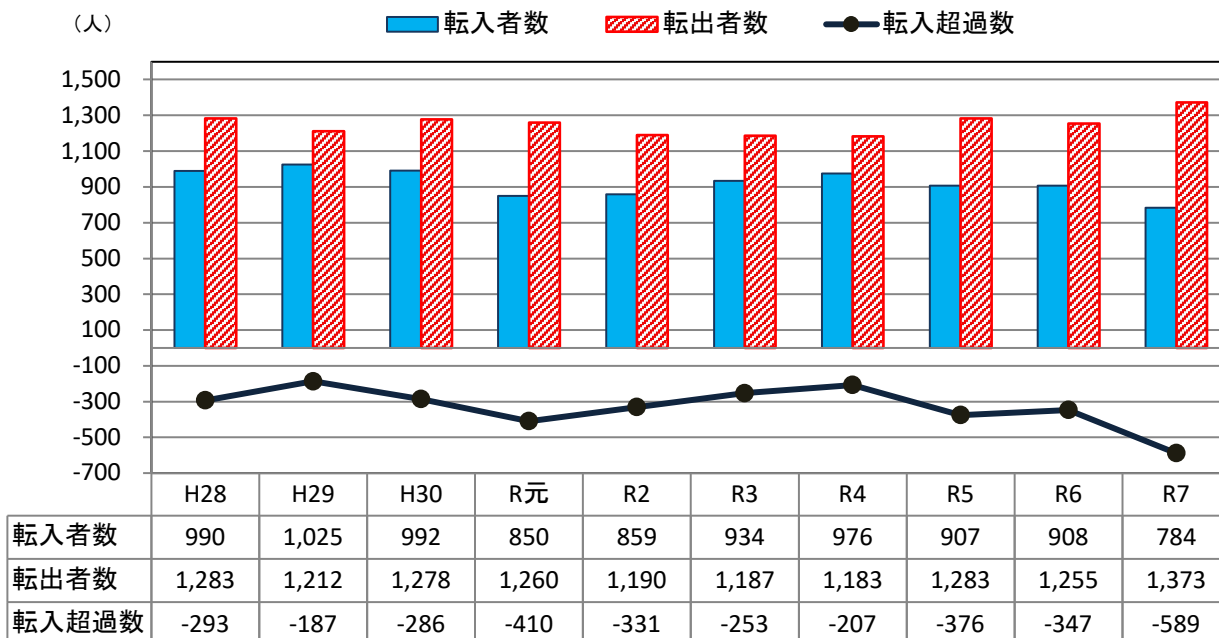


県外転入・転出者数の推移（令和7年移動者総数上位6都道府県）

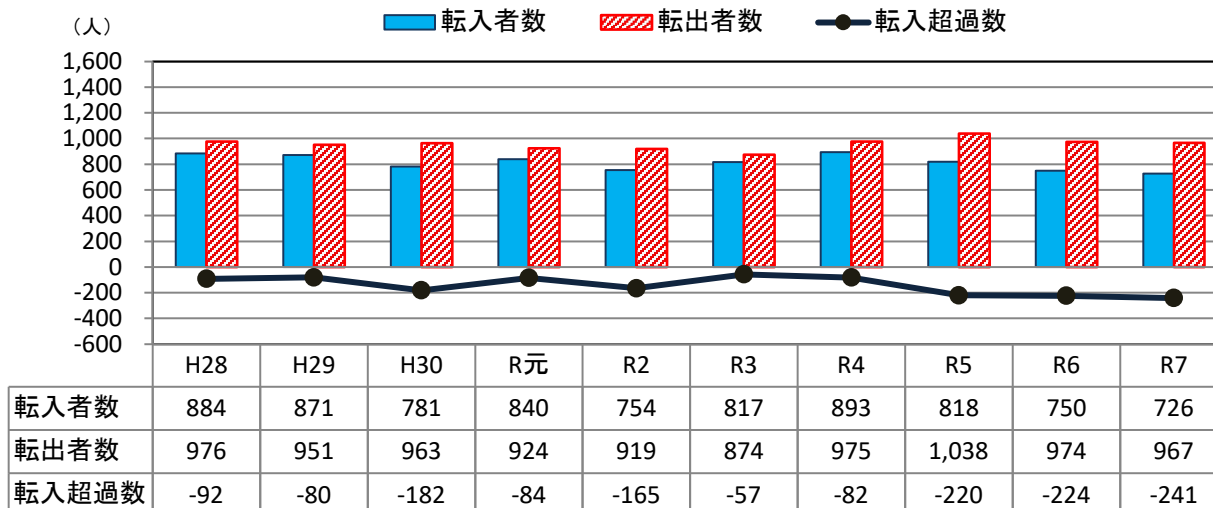
島根県からの転入、島根県への転出



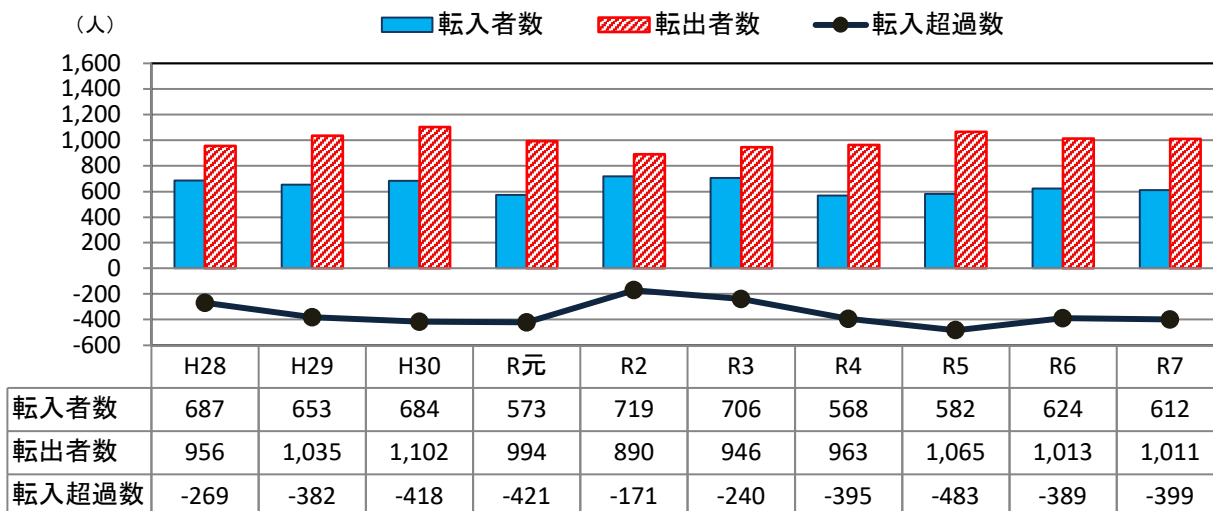
大阪府からの転入、大阪府への転出



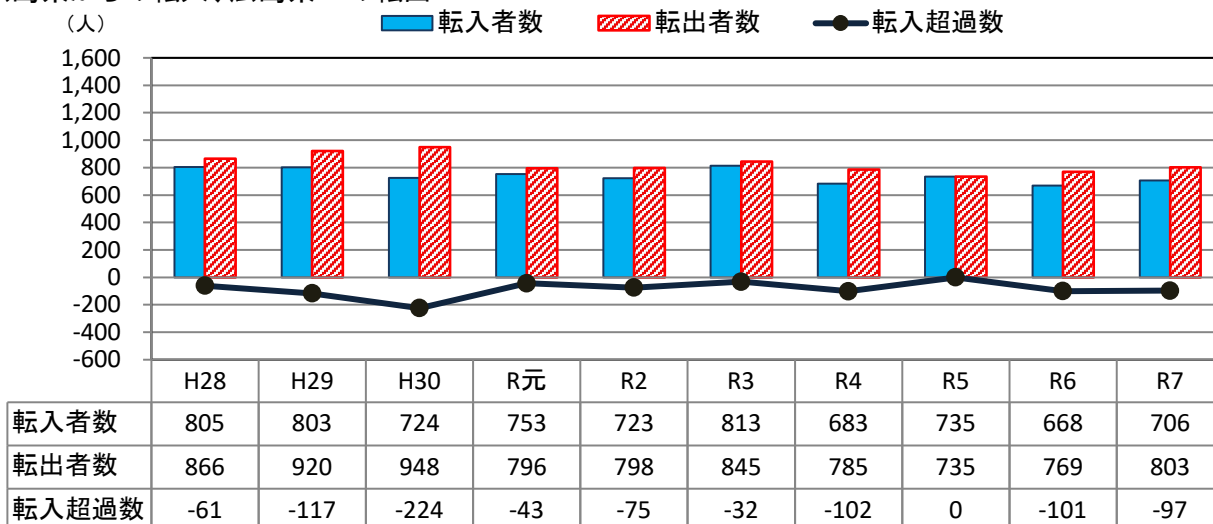
兵庫県からの転入、兵庫県への転出



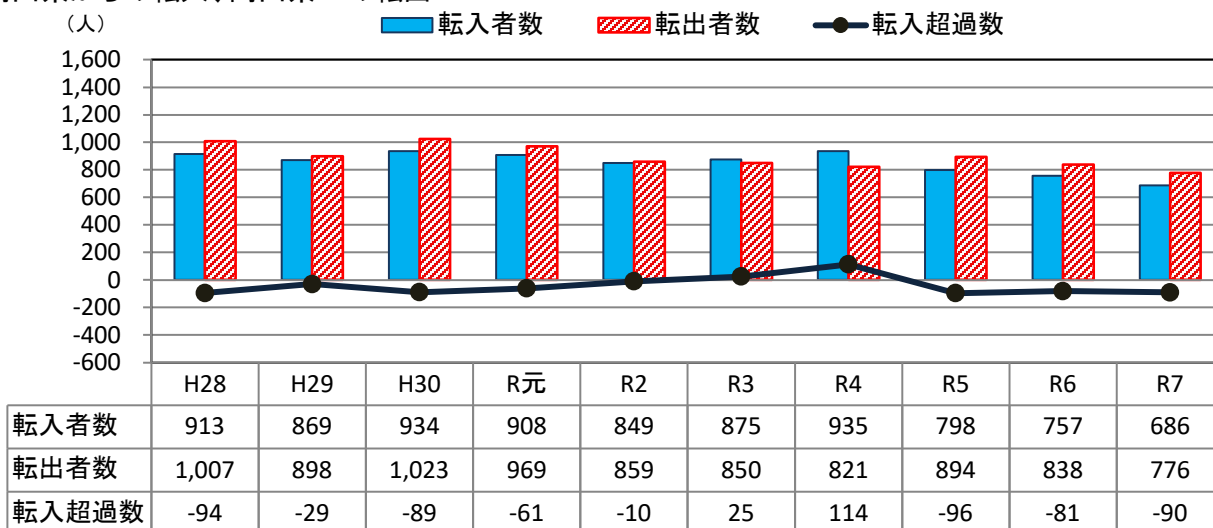
### 東京都からの転入、東京都への転出



### 広島県からの転入、広島県への転出



### 岡山県からの転入、岡山県への転出



注) 転入超過数がマイナス(-)の場合は転出超過を示す